

事務事業チェックシート

事務事業No 202 事業名 特別障害者手当等給付事業

[事業基本情報]

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	2	高齢者・障害者支援の充実
施策	2	障害のある人の自立と社会参加の推進
基本方針	2	経済的自立への支援

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		民生費	
	項		社会福祉費	
	目		身体障害者福祉費	
	大事業		身体障害者福祉事業	
事項		特別障害者手当等給付事業		

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間		～	
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市障害者計画		
担当課・担当課長 (Tel)	障害者支援課	坂下 雅朗 (435-1060)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束	障がい者福祉の推進			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か	事業内容				
	在宅の重度身体障害者等に手当を支給することにより、経済的負担を軽減する。	在宅重度障害者に手当を支給する。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		在宅で生活している重度の身体・精神に著しい障害のあるものに対する手当の給付 特別障害者手当26,260円(8,688人)障害児福祉手当14,280円(2,472人)経過福祉手当14,280円(480人)	在宅で生活している重度の身体・精神に著しい障害のあるものに対する手当の給付 特別障害者手当26,080円(8,364人)障害児福祉手当14,180円(2,424人)経過福祉手当14,180円(480人)	在宅で生活している重度の身体・精神に著しい障害のあるものに対する手当の給付 特別障害者手当26,620円(8,292人)障害児福祉手当14,480円(2,412人)経過福祉手当14,480円(456人)		

2 事業コスト

事業費等 千円		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	270,302	258,534	259,312	249,467	256,146		256,972		256,972		
	伸び率 (%)	-	-	-4.1%		-1.2%		0.3%		0.0%		
	人件費	常勤職員	12,541		11,506	12,431	12,148		12,148		12,148	
		非常勤職員	536	11,507	1,259	504	504		504		504	
		小計	13,077	1,259	12,765	12,935	12,922		12,922		12,922	
	国庫支出金	202,726	194,379	194,484	186,392	192,109		192,109		192,109		
	県支出金											
	市債											
	その他											
	一般財源(税等)	67,024	64,155	64,828	63,075	64,863		64,863		64,863		
	所要人数	常勤職員	1.69	1.54	1.54	1.64	1.63		1.63		1.63	
非常勤職員		0.34	0.85	0.85	0.34	0.34		0.34		0.34		
主な予算内訳	扶助費256,146千円											

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	延べ給付件数	年度目標値	11,640	実績値	11,182	10,857	11,160	11,160	11,160
成果指標	単位	人	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	96.0%	96.3%		
	経過福祉手当給付者	年度目標値	480	実績値	474	443	456	456	456
		年度別達成度	98.7%	92.3%					
	特別障害者手当給付者	年度目標値	8,688	実績値	8,301	8,075	8,292	8,292	8,292
年度別達成度		95.5%	96.5%						
障害児福祉手当給付者	年度目標値	2,472	実績値	2,407	2,339	2,412	2,412	2,412	
	年度別達成度	97.3%	96.4%						

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実	/			
	現状維持	○			
	縮小	/			
	廃止	/			
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	特別障害者手当等の支給に関する法律に基づき今後も現状を維持継続して行きたい。
「見直し」 「改善」案	現状のまま維持継続